

《担当者名》 橋本竜作 hashi-ryu@hoku-iryo-u.ac.jp
百々尚美

【概要】

臨床心理学的査定法とともに、医療人の素養としてのメンタルヘルスに関する専門的知識を身につける科目である。

【学修目標】

臨床心理学に関する諸理論に関する基礎知識を習得し、評価や治療に関する技法を知り、見立てや診断に応じて、それらの技法の要点を理解する。

1. 代表的な人格理論と、その異同を説明できる。
2. 主な臨床心理学的査定法について説明できる。
3. 心理的異常について障害と特徴を説明できる。
4. 主な心理療法の技法とその背景を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	臨床心理学への誘い	臨床心理学の学問領域について概説する。	橋本竜作
2	人格理論	人格の類型論と特性論について知る。	橋本竜作
3	人格理論	ビックファイブと、人格障害について知る。	橋本竜作
4	異常心理学	気分障害、不安障害などについて知る。	橋本竜作
5	臨床心理学的査定法	観察法、面接法、質問紙法について知る。	橋本竜作
6	臨床心理学的査定法	知能検査、発達検査、人格検査について知る。	橋本竜作
7	臨床心理学的査定法	投影法について知る。	百々尚美
8	心理療法	精神分析療法について知る。	百々尚美
9	心理療法	精神分析療法について知る。	百々尚美
10	心理療法	行動療法について知る。	百々尚美
11	心理療法	認知療法について知る。	百々尚美
12	心理療法	クライアント中心療法について知る。	百々尚美

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験100%（橋本担当分50%、百々担当分50%）

試験実施後、問い合わせがあった際には解答の要点を掲示する。

【教科書】

山田弘幸 編著 「言語聴覚士のための 心理学 第2版」 医歯薬出版株式会社 2020年

【参考書】

下山晴彦 編 「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房 2009年

【備考】

言語聴覚士の国家試験出題基準にある「発達各期の心理臨床的問題」は複数の講義にまたがって解説します。
なお、教科書は1年生の「認知心理学」で利用している書籍と同じです。

【学修の準備】

予習として教科書または前回の講義資料を熟読し、各理論や心理療法について学んでおくこと（80分）。

復習として講義内容を見直し、関連書籍を図書館で借りて、理解を深めておくこと（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれら

の人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

橋本章作（公認心理師）、百々尚美（公認心理師）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床・研究の成果を反映させた講義内容となっている。